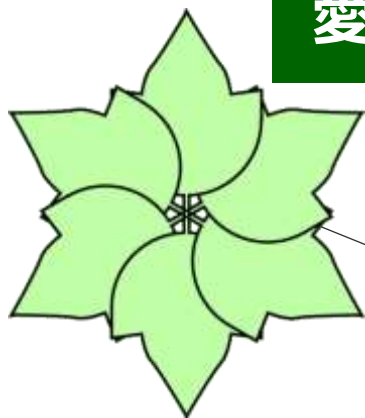


愛知県自然観察指導員連絡協議会



総会・記念講演

愛知県の木であるハナノキの葉をかたどってデザインされた、愛知県自然観察指導員連絡協議会のマークです。
6枚の葉が重なる形は、名古屋、尾張、知多、西三河、東三河、奥三河の6つの支部を表しています

① 総会 受付/13:00～ 13:30～14:30

◆日時：2024年3月20日（水・祝） 13:30～14:30

場所：日本特殊陶業市民会館（名古屋市民会館） 3階第1会議室 TEL 052-331-2141

令和5年度の通常総会です。一年間の活動を振り返ります。皆さん一人ひとりの協議会です。皆さん方の意見が新たな年度の事業に反映されます。是非ご参加ください。

① 通常総会 13:30～14:30

② 記念講演会 14:40～16:00

③ 意見交換会 16:10～16:

② 記念講演会 14:40～16:00 意見交換会 16:10～16:20



◆講師／森 勇一 氏 博士（環境史学、愛知県環境審議会地質部門長）

演題／「ムシが語る昔ばなし・ムシとヒトの災害史の研究」

【プロフィール】

名古屋市出身。三重大学大学院生物資源学研究科博士課程修了。愛知県立津島高等学校教諭、愛知県埋蔵文化財センター課長補佐、国際日本文化研究センター共同研究員・同客員准教授、金城学院大学などを経て、現在東海シニア自然大学講師。愛知県史・三重県史・名古屋市史・日進市史など多くの自治体史執筆のほか、以下の著作がある。

『地球の歴史名探偵 ガラスの雨が降る夜』（風媒社）・『アンモナイトの約束』（同）・『東海のジオサイトを楽しむ』（同）・『東海・北陸のジオサイトを味わう』（同）・『ムシの考古学』（雄山閣）・『続ムシの考古学』（同）、『環境考古学ハンドブック』（朝倉書店）・『新しい研究法は考古学に何をもたらしたか』（クバプロ）・『縄文文明の発見』（PHP 研究所）（以上共著）。

【ムシが語る昔ばなし〜ムシとヒトの災害史の研究】

安城市野寺町の本證寺は、徳川家康と戦った三河一向一揆の拠点だった寺院である。1563（永禄6）年、桶狭間の戦いで三河に戻ったばかりの家康の軍勢は、本證寺に立てこもった門徒衆や僧兵たちと激突した。2021年、この寺の一角で発掘調査が行われた。戦国のころ、西の守りがどうだったのか、確認するためである。土の中から緑色に輝くムシのハネが見つかった。

まずは、このムシたちが語る戦国の世の昔ばなしに耳を傾けてみよう。寺の周りにどんな木が生えていたか、立てこもった僧兵たちはいったい何を食べていたか、土の中に埋もれていたムシたちが教えてくれるのだ。

筆者は、毎週のように日本各地から送られてくる土の中から出たムシに取り組んでいる。翌日の予定がない日には、決まって夜10時になると顕微鏡ルームにこもり、バラバラになったムシたちがどんな昆虫のどの部分なのか、一点ずつ顕微鏡下で調べる。あまりに夢中になると、夜が明けるとも分からないことがある。そういう生活がすでに35年経った。

縄文時代のころヒトがどんな生活していたか、土の中のムシが教えてくれるのだ。弥生時代になって稲作が開始されると、わが国の自然がどう作り変えられたのか、中世や江戸時代のころヒトがどのような自然災害に遭遇したか、そんなムシとヒトの災害史の研究の一端を紹介したい。



主著 森 勇一

総会・記念講演

3/20（水・祝）

日本特殊陶業市民会館

（名古屋市民会館）

金山駅から北へ徒歩徒歩5分

3階第1会議室



主催／愛知県自然観察指導員連絡協議会